

日本鐵鋼協會記事

理事會 7月6日(水曜日)午後8時30分開會 出席者 鹽田泰介君 河村驍君 協議事項 (1) 第三回講演大會開催に關する件、(2) 工業品規格統一調査會より諮問の罐用繼目無鋼管の寸法規格案に關する件 (3) 第二回研究部會開催準備に關する件 (4) 會員移動入退會者承認

以上等にして午後8時閉會す

編輯委員會 7月6日(水曜日)午後5時開會 出席者 川上義弘君 田中清治君 室井嘉治馬君 三島徳七君 足立泰雄君 鹽澤正一君 協議事項 (1) 鐵と鋼第13年第7號上掲原稿選定の件 (2) 第二回研究部會開催準備に關する件 (3) 第三回講演大會準備に關する件

以上の通りにして午後8時閉會す

講演會 (日本鐵業會聯合開催) 開會時日 6月24日(金曜日)午後6時25分 場所 京橋區加賀町日本鐵業會講堂 演題及講演者「印度製鐵事業に就て」商工省技師工學士 足立泰雄君 主催代表日本鐵業會々長俵博士の開會の辭に次で講演に入り講演者は商工省より印度に出張され親しく調査の結果報告にして其論旨要項を掲ぐれば、同地製鐵事業の沿革、同地の磁鐵鑛及赤鐵鑛の存在の狀況、石炭フラックス、滿庵鑛等の存在狀況、製鋼及鉄鐵產出狀況、鉄鐵輸出狀況及政府の製鐵保護法等廣汎に涉り一々詳細に論述されたれば斯業に關係する者に最も有益にして好資料たるべし。

以上講演に對し質問者數名あり一々御叮嚀に應答され終て午後9時日本鐵鋼協會々長鹽田博士講演者に謝辭を述べられ散會を告ぐ滿場拍手を以て謝意を表し午後9時5分散會す今回の聴講者總數40餘名なりき

講演者は斯る有益なる御調査を本會の爲め發表ありたるを茲に感謝す

講演會 開會時日 7月20日(水曜日)午後6時30分 場所 京橋區加賀町日本鐵業會講堂、演題及講演者「英製鐵鋼協會のストックホルム大會に就て」釜石鑛山株式會社 常務取締役工學士 西村小次郎君、定時に至れば會長鹽田博士の開會の辭に次で講演に入り演題に示す如く講演者は英國鐵鋼協會ストックホルム大會に親しく參會されたる其狀況を詳細に述べられ且つ歐洲製鐵業の漸新なる狀況及瑞典に於ける世界獨特の製品產出の狀況を論述され結論として本邦製鐵業に従事者の歐洲の其れに比し最一増の努力を要する旨に論及されたり其れに對し理事河村博士の所感を述べられて午後8時50分會長鹽田博士の講演者に謝辭ありて散會を告げられ一同拍手を以て謝意を表し散會せり

今回の御講演は斯業者に取り最も有益なる御發表なりしに不拘聴講者の甚だ少數なりしを遺憾とする所なり茲に本會の爲め酷暑中遠路御上京の上御講演被下たるを感謝す

入會

居所或は宛名先	勤務先、職業、	稱號	會員別	氏名	紹介者
旅順市工科大学冶金科教室	旅順市工科大学助教授	工學士	正會員	大日方一司君	長谷川熊彦 塚本小四郎
神奈川縣藤澤町鴫沼7,345	日本特殊鋼會社	海軍少將	正會員	平岩元雄君	渡邊三郎 河村驍
仙臺市片平町金屬材料研究所	東北帝國大學金屬材料研究所助教授	理學博士	正會員	遠藤彦造君	本多光太郎 河村驍
市外駒澤町上馬 372	東大冶金科		准會員	村上浩介君	田中清治

門司市大里原町別院通
八幡市高見町二丁目

司鐵道局小倉工場
製鐵所内検査官

早大工學士 准會員 富永貫一君
砲兵少佐 准會員 松井光太郎君

村松橋太郎
川上義弘

退會者承認濟

准會員 照内梅太郎 " 山下 清 " 王 榮 林 " 中野秀夫 " 竹村義夫 " 村田 悟
" 鈴木友訓 " 諸富明治

正會員 田中 俊 " 篠原哲十郎

獨逸工業材料會議に關する工業品規格統一調査會よりの通牒

工規第85號 昭和 2 年 7 月16日附工業品規格統一調査會幹事發

本會宛

獨逸工業材料會議實行委員會より別紙寫の通り本年10月20日より3週間伯林に於て工業材料に關する討論會及展覽會を開催するに付本調査會其の他關係者の參會を希望する旨申越候に就ては右會議の要旨及送付候條可然御取計相成度此段及通牒候也

(要旨譯文) 獨逸工業材料會議の要旨

1. 目的 工業の改良進歩が其使用材料の研究改良にある事を力説し次の各部に別ち會議を開催す
第一部 工業材料討論會 第二部 工業材料展覽會 材料陳列 材料試驗方法展示
2. 陳列材料の範圍 本年は金屬材料及電氣材料に限り其他は次年に譲る事とせり
3. 工業材料討論會 本討論會の會期は10月22日より11月6日に至る2週間にして約300の論文を朗讀一論文を30分にて朗讀討論する豫定なり其の主なるもの次の如し
耐熱合金 タルビン材料 飛行機材料 軌條及タイヤの耐久力 汽罐材料防錆の爲にする表面處理耐酸合金 輕合金用工具及機械 銅及其の合金アルミニウム及其合金 アルミニウム鐵 鋼の燒入 アルミニウム合金鑄物軸承用金屬試驗法 ニツケル及其の合金 金屬熔融鑄造、ダイプレス 燒鈍及再結晶 彈機用合金板 刃先の耐久力を大にする工具鋼の燒入方法 アルミニウム及其の合金の腐蝕 電氣的及機械的の外力を同時に受くる絶縁用陶器の性質 化學工業用金屬材料 不鏽鋼 引拔鋼材の用途 其他
4. 工業材料展覽會 本展覽會の會期は10月22日より11月13日に到る3週間にして工業材料を陳列するのみならず其の製造工程及試驗方法を解説す電氣絶縁試験は 100萬ボルトの電壓を使用する豫定なり陳列すべき材料の主要なるもの次の如し
 - (1) 鐵及鋼材料 普通構造用壓延鋼材 合金鋼壓延材 引拔材料 S.M.鋼 工具鋼 鑄鋼 鑄鐵 可鍛鑄鐵等の製品及製造工程を展示し試験方法は機械的 工作的 化學的 顯微鏡的 物理的の各試験の方法及實驗を展示す
 - (2) 非鐵材料 銅及其の合金 アルミニウム及其合金 マグネシウム及其合金 鉛 錫 亞鉛 ニツケル 銀 金 白金 タンクラム 砒素 アンチモン カドミウム コバルト マンガン クロム アルカリー金屬 珪素 磷 硼素 滿俺鋼 鐵銅 磷錫 アルミニウム鐵 珪素鐵等を陳列し其の諸試験方法は鐵及鋼に準ずるものとす
 - (3) 絶縁材料 陶磁製材料 壓搾材料 (ゴムを含むもの及ゴムを含まざるもの) マイカ マイカナイト 壓縮機 石綿 塗料及油類を陳列し諸試験方法は金屬材料に準ずる外高壓の絶縁試験用としては 100 萬ボルトの裝置を設くる豫定なり